

〈実験台の家 離れ(縦張り) 9年目の報告〉

2014年に建てた離れは、母屋との間を木もちeデッキで繋ぎ、庇のない箱型の設計で、木もちe外壁(縦張り)を東西南北すべての面に使用しました。

新築時

アルミ扉を配した庇のないキューブ型のシンプルモダンなスタイル



経年1年

新築から約1年は、大雨時に膨らみ晴れると元に戻るといった無垢材ならではの調湿機能を発揮、形状改良の効果で極端な膨らみの散見は無し



経年4年

「無垢の外壁材や建具は大体2年ほどで土地になじむ」という業者様の声の通り2年経過してからは雨が降っても目立った変化はないが、近年豪雨が頻繁に発生していることから、さらなる品質向上を目指し経過観察を続ける



経年9年

ゲリラ豪雨が日常なる。一番雨や日が当たる東側の外壁の反りが目立ってきたので、外壁板の上からビスで頭打ちし動きを止める。庇が短い建物は、隠し釘のような打ち方ではなく外壁板の頭から打ち動きを止めた方がベストという結果がでたため2018年より施工仕様書も追文した。

